

## 地方史研究の動向

### (一) 田北孝氏の「大友史料」続刊

元大分高商教授田北孝氏が十七ヶ年の努力の結晶として発刊された「大友史料」既刊四巻は、さすがに、この種資料集の白眉として、洛陽の紙価を高からしめたが、太平洋戦争の影響を受け、続刊原稿が第二校のまゝで中止された。戦後これが刊行を渴望する声は郷土本県は勿論全国学界からも要望されて起きていたが、期熟してか、今回氏が教授として現在所属の別府大学からA5判和綴美装孔版二百五十頁予定、頒価五五〇円を百部限定とし、十二月二十日頃第一次出版を始めとして順次家わけ（郡市別）の大友史料として出版し、広く史家の参考に資することになった。希望者は至急同大学に申込みばよい。

### (二) 活躍する大野町文化財研究会

町公民館内に事務所を置く大野町文化

財研究会では、斯界の先達十時英司、工藤祐一郎氏等を中心に大活躍をしているが、特に郷土先人精神生活の結晶である伝承を始め地方的な民俗資料などを採集し、「はなし」として毎月一回、謄写冊子の発行を続け、其他「地名を主とした郷土研究」を補遺篇迄合せて已に第六集を発刊し、町民は用紙一枚一冊の割で発行の都度購入協賛している。

### (三) 杵築町史談会の活動

杵築町史談会は会長土居寛中氏（本会速見郡委員）を中心に、戦前定期史談会は勿論、調査見学、入江文書を始め調査研究物の発刊、先賢遺芳展等々大活躍、戦後も文化財の調査研究、座談会等を開催していたが、去る十一月十八日の会合では、町文化財の保護条例の制定、史談会の再編成、遺芳文献の展覧と出版、今後毎月一回例会を開くこと等を申し合せて躍進することになった。なお、同会では多数入会者を希望している。

### (四) 奥宇目民俗保存会

南海部郡小野市村木浦鉦山教室に事務所を置く奥宇目民俗保存会では、大分県民謡民芸大会出場を契機として全国的に有名となつた「宇目の唄げんか」を始め奇習墨つけ祭などの顕彰宣伝をなすと共に安藤隆氏を中心となり、郷土研究文庫シリーズ木浦鉦山小史、宇目の唄げんかの二冊を出し、近く木浦鉦物誌、外財根元記等が続刊することになつている。因みに安藤氏発見の「寛保のお仕置覚悟」はマリオ・マレガ氏編「読書人切支丹史料」採録の元禄十二年の「御仕置五人組帳」と同類のものであるが比較研究上必要として「大分県史料」に集録された。

### (五) 大分放送局郷土資料調査会、の動き

本誌の委員を中心とする大分放送局郷土資料調査では是足以来殆んど毎月地方町村の实地調査を行い其の收穫を放送して県民の注目を浴びている。近く南海部

郡明治村、下堅田地方の調査を行うことになつてゐる由。

### (丙) 本会の躍進

全国的には其の誕生が必ずしも早いとは申さないが、各位の御賛同により、月満ちて生れた我が「大分県地方史研究会」も、之れが活躍の中心となる機関誌「大分県地方史」創刊号は、各地で好評を以て迎えられてゐる。とは「地方史研究協議会」の総会に出席された本誌中野幡能委員の報告である。本会では会員

の要望により近く毎月一回、岩波全書「地方史研究必携」をテキストとして研究をなすと共に、大分市を始めとして県下各所の現地調査の共同研究を始めることになつた。本会員たると否とに關係なく多数の参加を望む次第である。

### (四) 松原參議の本誌応援

創刊号が岩崎縣議長の斡旋援助で発刊を見たことは誌上報告の通りであるが、本号発行も会費の未納其の他で困つた。叶わぬ時の神だのみ、厚顔にも筆者は唐

突に郷土出身全國參議、我等が同窓大先輩松原一彦先生に本誌を送つて応援を求めた。目下御病中、且つは政界多事の秋、折り返えし卅日から始まる臨時国会で県出身議員諸賢に斡旋援助寄附を依頼するとの朗報を今日(十一月廿六日)手にした。早速大分大平本誌事務所に行つて同人に報告した。結果報告は紙上でする。松原氏の御厚意に感謝すると共に氏の健康恢復と庶募金の少しでも多いことを祈る次第である。(立川輝信)

## 郷土史話

### 大友六代貞宗の經典開版

本朝の高僧、南禪寺の義堂周信が貞宗の七周忌の供養に上野金剛寺で、觀世音を讃讃して陞座した、義堂和尚の語録によつて貞宗が生前、法華經二千部を開版したこと

を知ることが出来るとのことである。木宮氏の「日本古印刷文化史」によれば、それは恐らく今から五百九十年ばかり前の、延文、貞治の南北朝時代ではないかと書いてある。二千部も刊行施本したこのお経が、今日全国中に一冊も見当たらないのは何と遺憾至極ではないか。

貞宗は大友孫太郎、左近將監、近江守、從五位下、法名具簡道庵・顯存寺殿と号した。彼の郷土、我が豊後の何處かの寺から其のお経本が一冊位出て来てもよいのではあるまいか。敢えて誌友各位の関心を乞う。(立川)